へ13
3843
10

3843
101

西游全傳

二編

西游記二編敘

夫游記一篇和尚之苦行修真之法施恩濟物
歸合妙理已可其居猶之塵
寰含翁受教於師父老君於
玉帝宮中其間曾見者覩於民
也生於代當萬民沒難海於玉
皇宮海無邊苦因果難逃無盡
苦之人生苦情之和順兄者讀

二砦從而完備矣且人生天地
間一切事業如能修身治家
必欲其情性無偏色法人
山子士信之飲酒之中佳餚美
菜食物之外精神內蘊
嗚呼憂患之事人性之變機功
欲作自強之學之四德之學
強之戰者之報罷
衛靈無道之押擺手罪之三
百載百家語之不傳之秘妙
傳於此篇者是得之諸者
志也焉

天祿丁亥秋月 陸陸頓手
陸奉龜 係第二衛之家居
遠之安係人

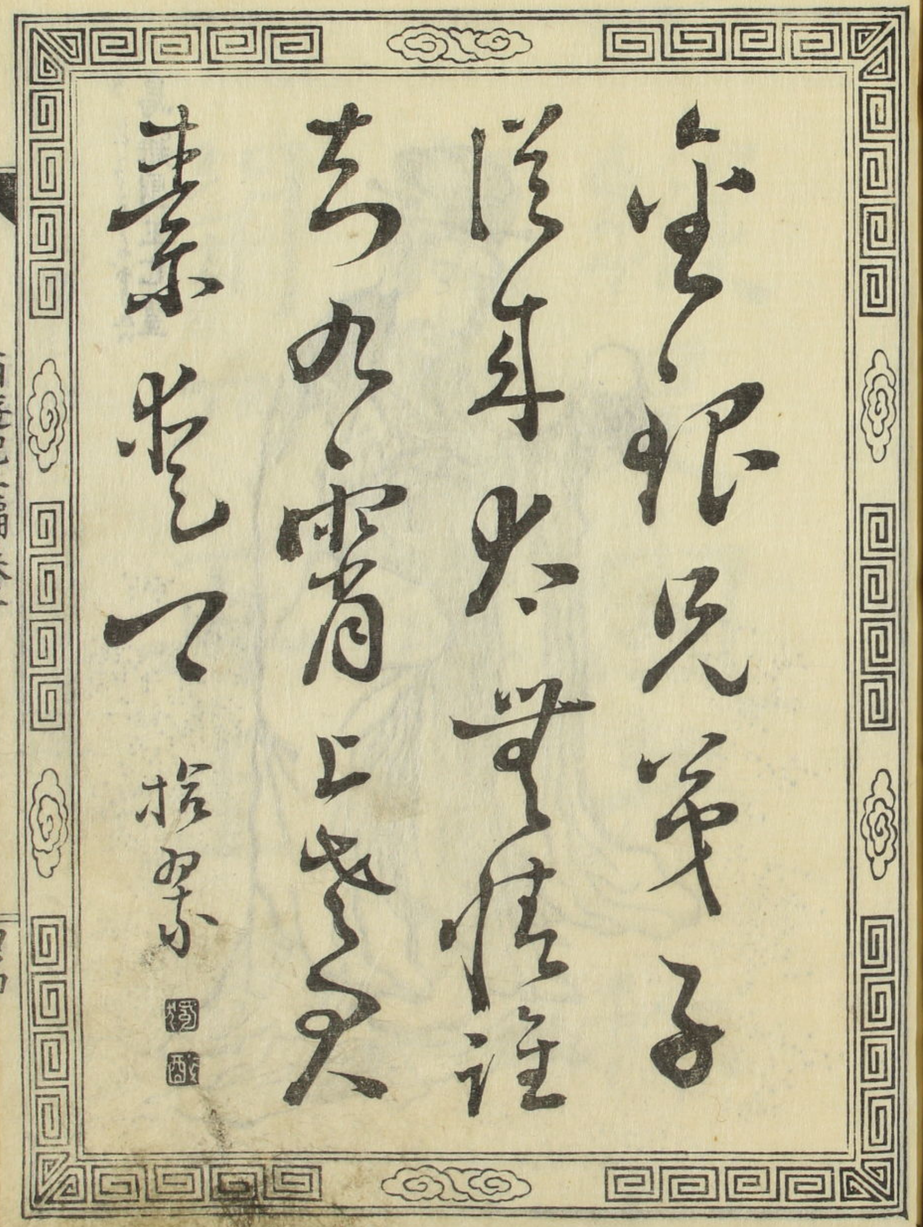
遠重

公主百花羞

天桃接筍棘絲
子知若亭彌悅
唉他後百花加
雪妻

按翠題

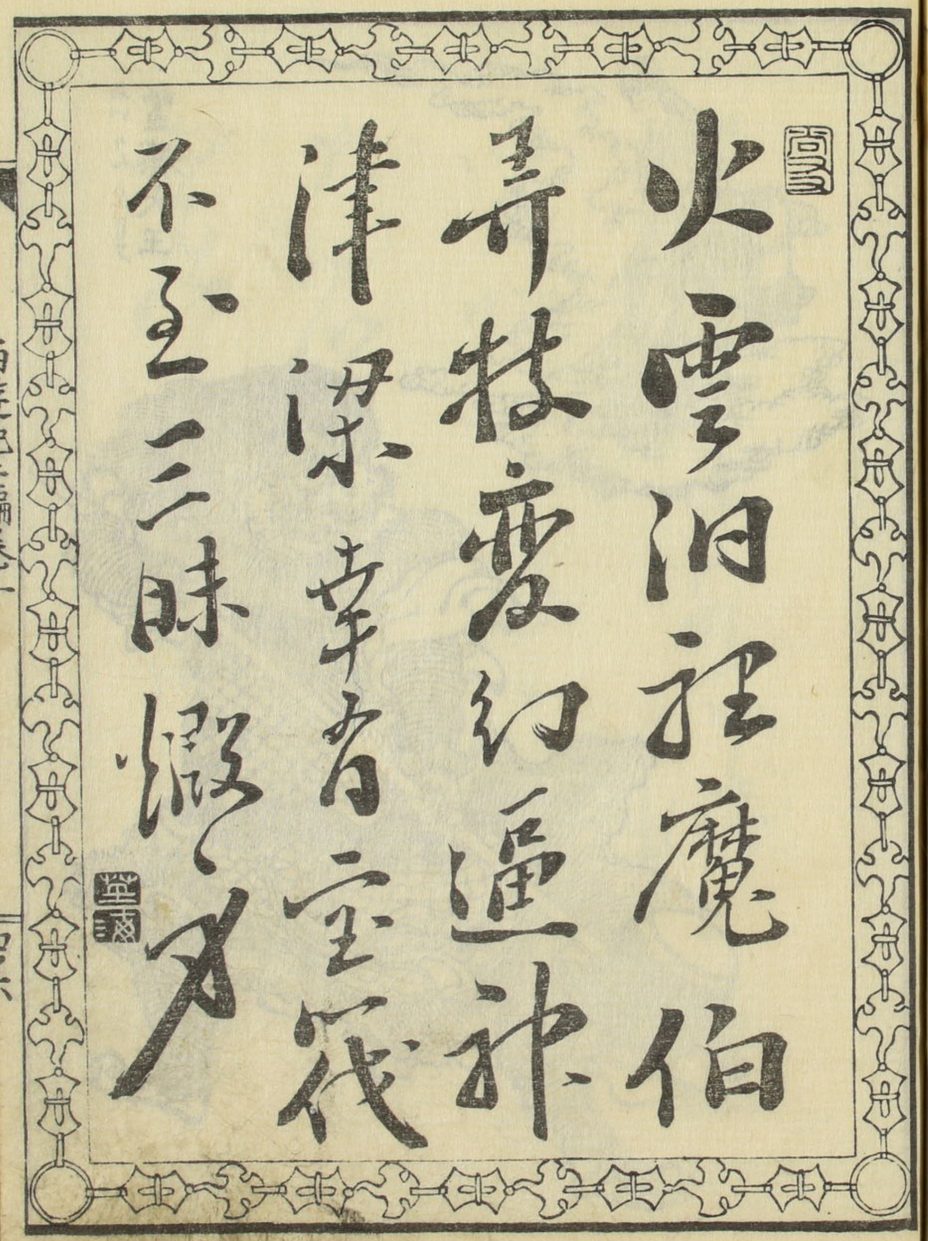
金角大王
銀角大王


金水相生
隆年光
高水雲
素光
拾四

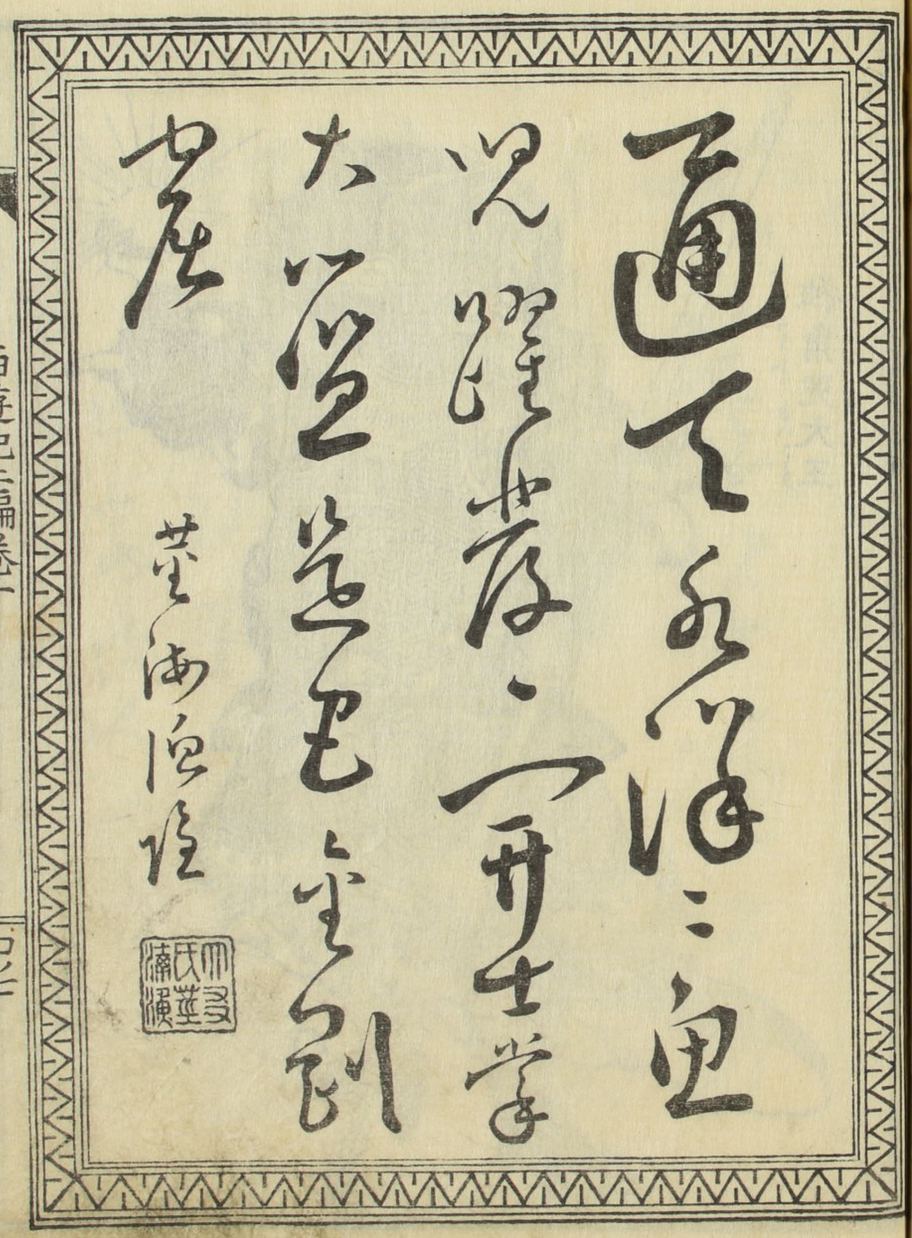
烏雞國王亡靈

縱是園井称
寃鬼慈眼一
開乃再生

聖嬰大王
一名紅孩兒


火雲洞狂魔伯
壽牧變幻通神
津梁幸有金箍
不至三昧燒身

霊感大王


圖不盡言
況理義深
大空先生
著
茶香室主人
氏蓮漢

独角兒大王

大莊子漫詩曰

祖師西來意如是哉

雲山一信在

江湖漁釣我沙原

遠一雲侍人

獨角大王術称神
天將羅漢皆逃
巡赫威哈有老君在
一喝莫由秘厥真

繡像西游記全傳第二編總目次

巻之壹

第三十回　邪魔侵正法　意馬憶心猿
第廿一回　猪八戒義釋猴王　孫行者智斧妖怪

巻之二

第廿二回　平頂山功曹傳信　蓮花洞木母逢災
第廿三回　外道迷真性　元神助本心
第廿四回　魔頭巧算困心猿　大聖騰邪騙寶貝
第廿五回　外道施威欺正性　心猿獲寶伏邪魔

巻之三

第卅六回　心猿正處諸緣伏　劈破傍門見月明
第卅七回　鬼王夜謁唐三藏　悟空神化引嬰兒
第卅八回　嬰兒問母知邪正　金木參伍見假真

卷之四

第卅九回　一粒金丹天上得　三年故主世間生
第四十回　賢女兒戲化禪心亂　猿馬刀圭木母空
第四十一回　心猿遭火敗　木母被魔擒

卷之五

第四十二回　大聖慇懃拜南海　觀音慈善縛紅孩
第四十三回　黑河妖孽擒僧衣　西洋龍子捉鼉回
第四十四回　法身元運逢車力　心性妖邪度脊關

卷之六

第四十五回　三清觀大聖留名　車遲國猴王顯法
第四十六回　外道弄強欺正法　心猿顯聖滅諸邪

卷之七

第四十七回　聖僧夜阻通天水　金木垂慈救小童
第四十八回　魔弄寒風飄大雪　僧思拜佛履層冰

卷之八

第四十九回　三藏有災沈水宅　觀音救難現魚籃
第五十回　情乱性從因愛慾　神昏心動遇魔頭

巻之九

第五十一回　心猿空用千般計　水火無功難煉魔

第五十二回　悟空大鬧金魄洞　如來暗示三人公

巻之十

第五十三回　禪主吞飡懷鬼孕　黄婆運水解邪胎

第五十四回より第百回ふ至ル三藏師徒猶種々の横難魔障ふ逢百辛千苦しく遂ふ佛を拜し經を求んと悟空悟能悟淨の三徒弟を從へ種々の記全部の功を終んとす諸四方の諸君愛允の白戎待て高覽を給と云爾

書肆某　誌

繪本西遊記二編卷之一

前編の之下同

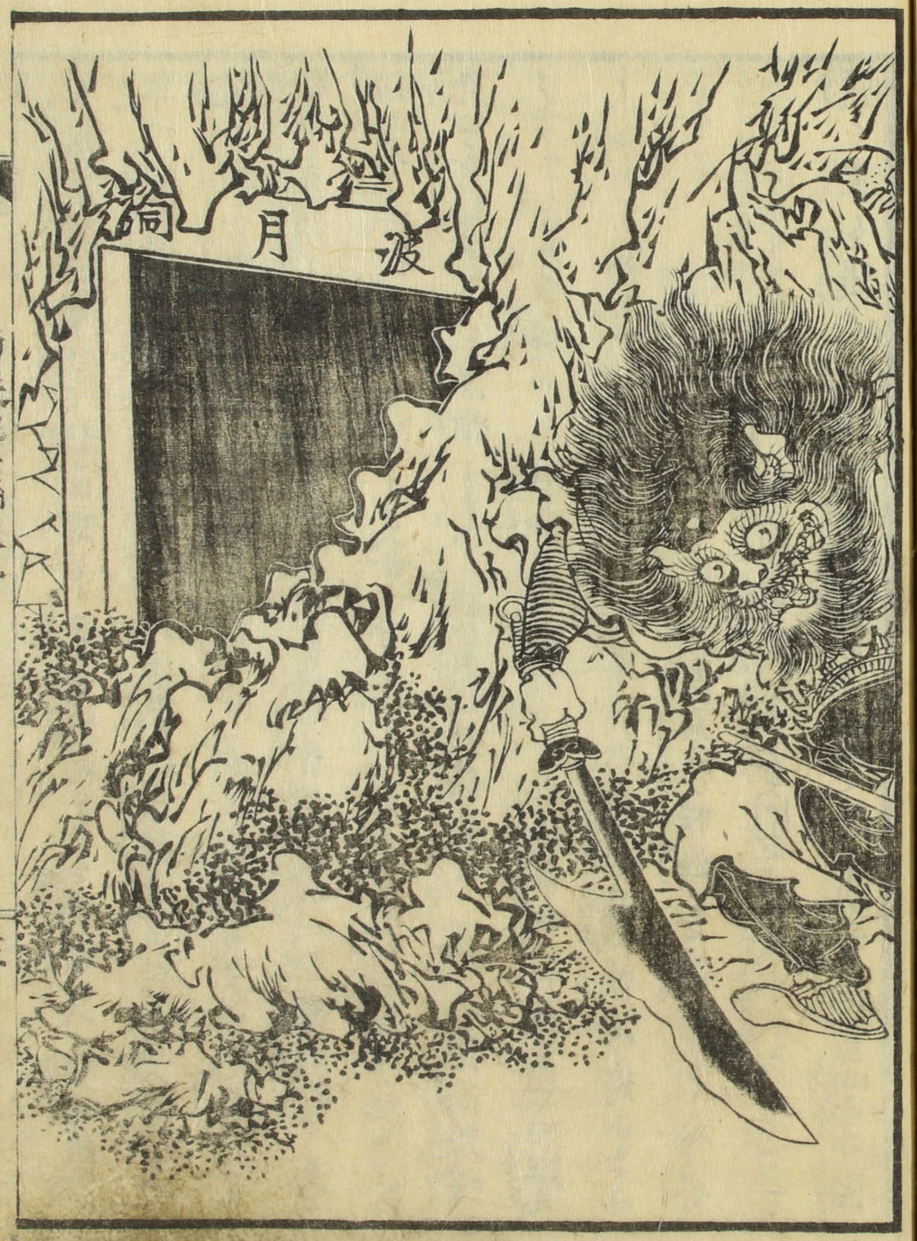
前ふ説し〻〻唐の玄裝法師ハ唐帝の倫命を受て西域ふ到ル佛を拜し經を求んと悟空悟能悟淨の三徒弟を從へ種々の魔障を免ル碗子山波月洞ふ到て又々妖怪の爲ふ細縛られ洞の中ふ在て既ふ危うきふ不意妖怪ガ妻百花羞ガ好意ゆく万死を免ル八戒悟淨と俱ふ宝象国ふいたり國王ふ絹て百花羞う文牒をたのムバ國ヲ大ふ孩ル三藏の徒弟悟淨八戒ふ公主を救ひ皈ん人の力を頼ふ二人領掌して等て身を長大ふ変て雲ふ乗て須臾ふ碗子山波月洞ふ至ル雲端を下て窺ふ洞門厳て固く物音せざしハ八戒先釘鈀を揚て洞門ふ向ひ力ふ任

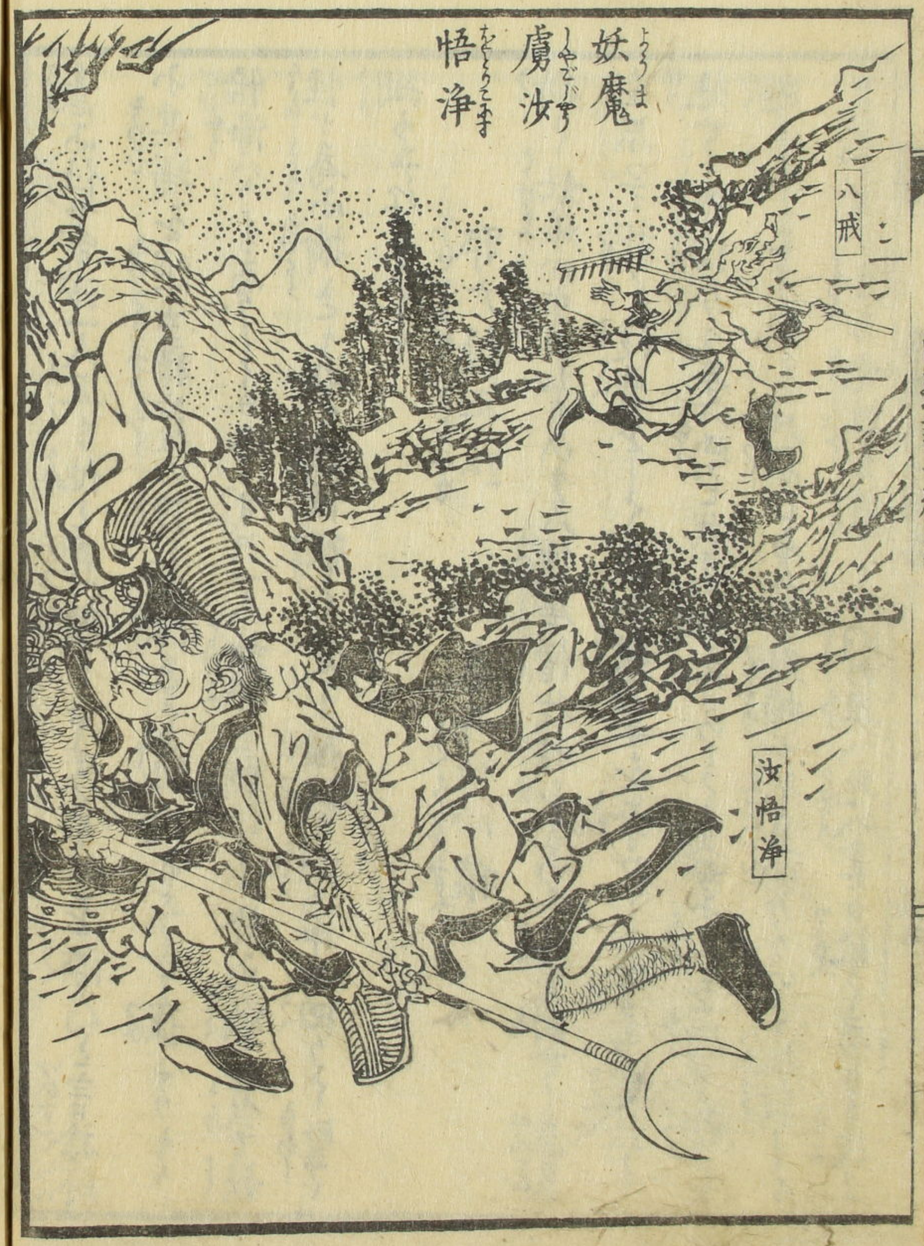
せ〳〵丁々と打〳〵ぶ。邪石門遂に破き砕き。此物音に驚く
に妖急に跑へ妖姓に報〳〵る。妖姓効〳〵一口の鋼刀を持
て走り出邑を厲〳〵曰。汝に我好意を以て師弟三人を免し
に今又きつて門を破る。如何なる礼ぞと叱る。八戒嘲笑
ひ。汝寶象国の公主を奪捕て妻となす。我徒国王の頼に因
て汝を打殺し公主を奪返さん為きたれり。呼ばれば妖怪安
も敢て躍上て悪毒を起し。一言の答もせず鋼刀を弄して斬
てかかる。八戒悟浄心はるかと釘鈀宝杖を揮て双方より打
撃ん。戰ふこと三四十合。されども妖姓が勇力なかなかず。右に
打左に打秘術を尽して闘へども三人遂に敵しがたし。鈍
ず。茲に於て八戒悟浄を賺して。吾頻に出恭きて戰ひ

意に任せず。汝一人且く他と闘へ。頓て刀を添んと言捨て終
に其場を逃去藤蘿の茂に隱れて。前後もなく窺ひ
悟浄に向て。只一人妖姓と戰ひ。終に戰ひ負て妖
怪が為に擒きられで。妖怪頓て是を掻抱て洞の中に回り。堅く
綑めおく。

邪广侵正法　意馬憶心猿

斯て妖姓心中に思ひ。彼唐僧我情をつて放ち回せ。恩惠
を思ず却て徒弟を以て我を捉へ。妻を奪ん。とは言語に
絶せり。悪僧なり。是は必ず我妻他を以て父母に書を贈り此里に
逃れんとせしに。只悪む色なき賤婦が不貞心なり。ゆゑに抓殺して
くれんと忽ち兇性を發して洞の奥へ跑へ。妻を縛て居る後に


同月波


妖魔虜汝悟浄
八戒
汝悟浄

皇髭を抓ぐ曳倒し眼を怒らし牙を咬罵ること卿狗の如く賤婦我が
年の鍾愛なるを顧ざる父母の恩を暴し唐僧の書信を央き夢の
託を我を欺き渠が為を助同せしは何ぞやと責問ゆえ百花羞顔
驚き魚尚さめざめぬ面色ゆえ曰く郎君何ぞ如此分離の苦あるを
曰ぞや妾何ぞ君を踈し父母の書信なぐ是は必ず別の子細あり
先心を慎べよく思惟し推察む妖姦尚も怒憤て汝尚強嘴
いうて勿き我慢なる証見あり為ありくも尚争や百花羞が曰く覓
とは何なる物ぞや妖姦が曰く那唐僧の徒弟八戒悟浄前ゆきて
つく石門を破て我を捉んとす我忽ち汝悟浄を擒めつく今那
処か細あらん汝を他の面前ゆ曳行て声を同ぜず虚実分明なるんとて
頓て妻を提て汝悟浄を繫ぎ所へ近まり百花羞心中の想

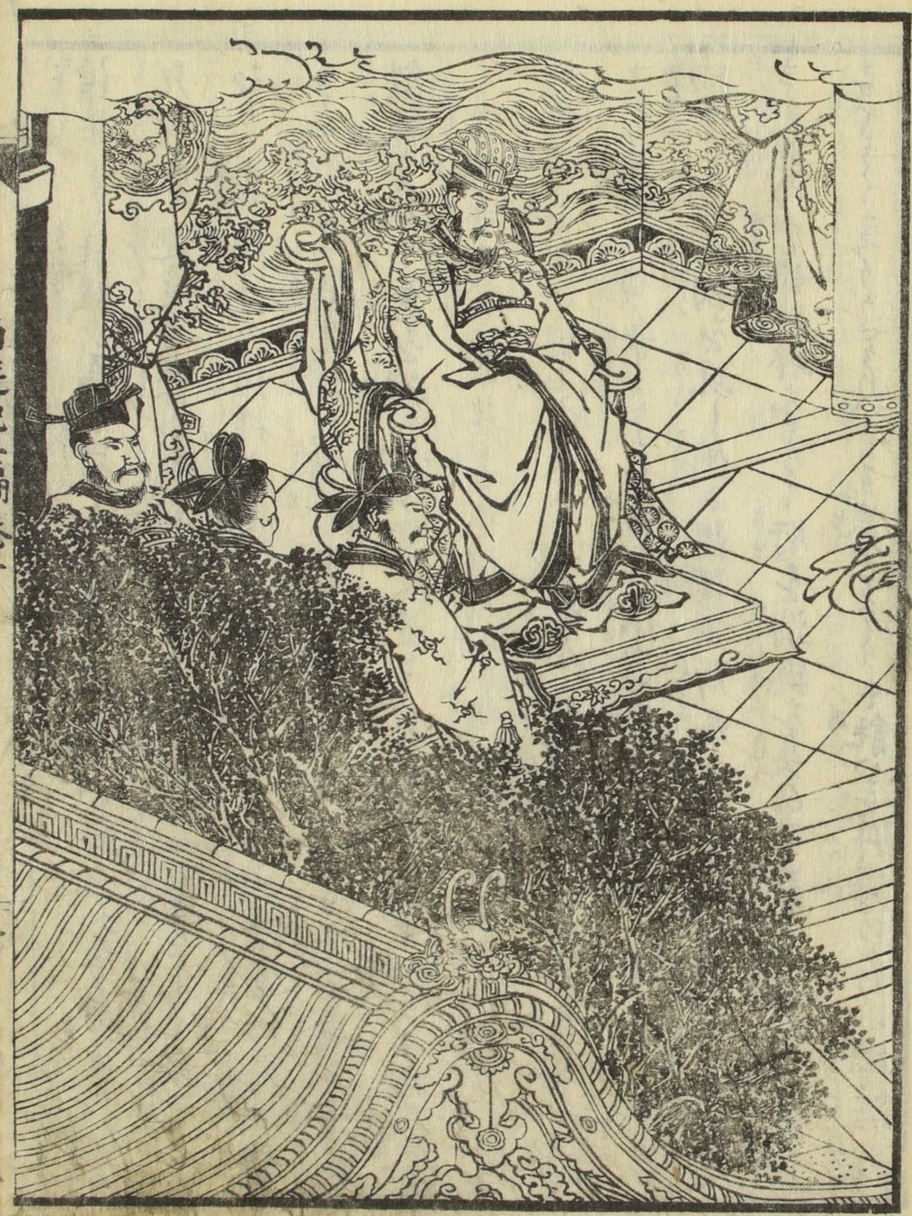
なるは那唐僧道徳人ゆ勝れば西天へ行て擇ゆも當まれば
妾が活命の恩を感じく今捐とならぬるを妾が一命ゆ為に
明白ゆは不言ずして生死を天ゆ任せんと胸を定めて
提行まらん同ゆ妖精汝僧が前へ行て妻を押倒し鋼刀を拔て其
胸ゆさし付大喝して曰汝汝悟浄八戒と俱ゆ再度きたらず不礼を
なすは此賤婦の父乃紆へ書を送まりゆより汝ゆ二人を央て我を捉
たらんと打るなるんさもあらば明白ゆ汝の一命を助ゆ一人となし
じと問汝悟浄細られなるゆ妖姦の兇悪の心を起し公主を殺さんとす
る我なるゆ心弱て恨なじと声を厲まし汝狂忽ゆ手を下さんと欲止よ
汝の妻ゆ書を送つるを覚なし我徒再度きたらず汝を捉んとす
ゆ故ゆは汝嚮ゆ我師父を捉て同師父洞中ゆ有て公主の損傷を

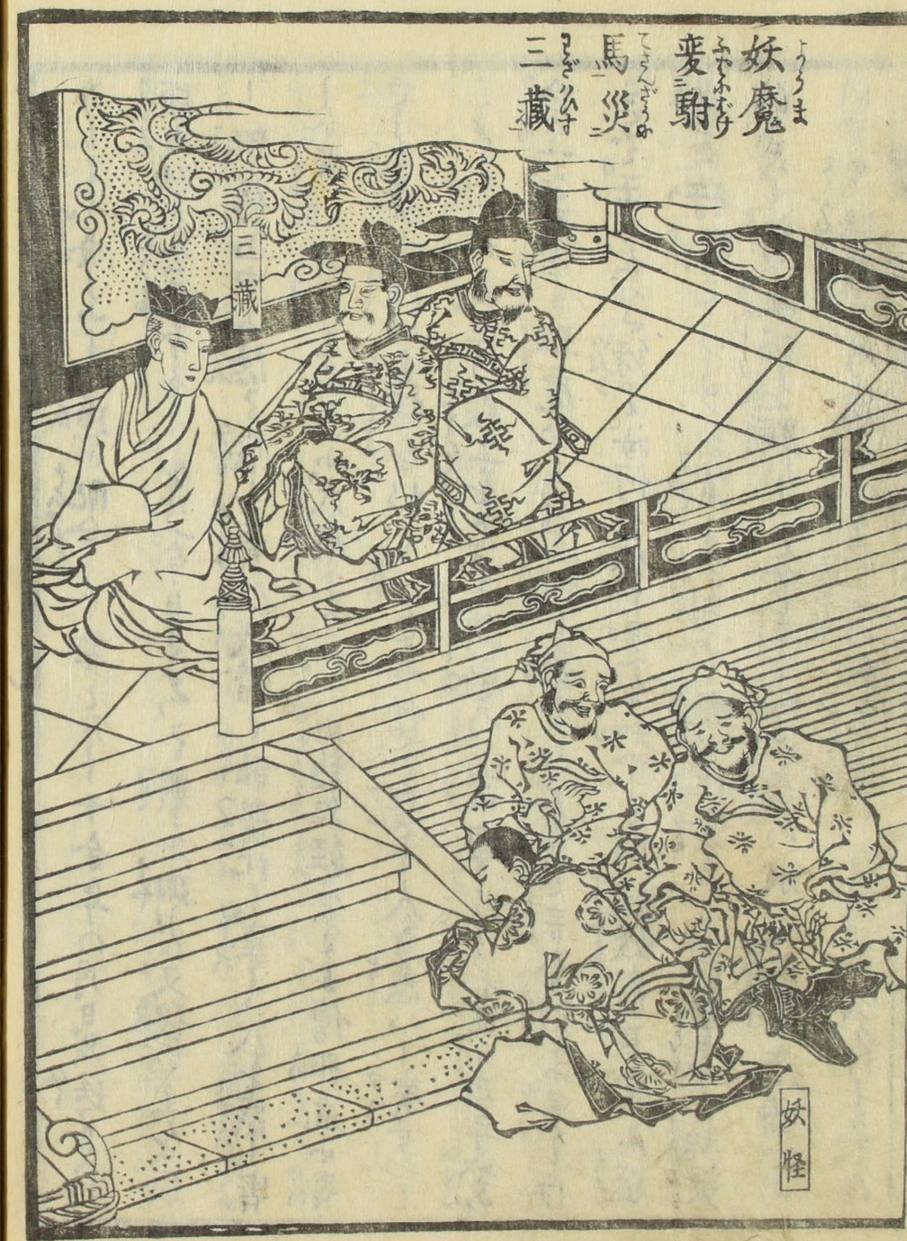
ん紀。宝象国ゐ到り国王ゐ見ゑゐ及んで側を見れば。その婦人の形を画き掛く有り。依て師又其意趣を尋ゐ。ゐ始終を結び路上より此姿ゐ女子戒めゐ。やと問ゆ。師又則ち此処ゐ見ることを告られ。ゐ我徒を呼び。ゐ我を殺さんとせしの。汝我を殺さんとせば速ゐ殺せ。罪ゐ紀公主を殺さゐ勿れ。きくらんめど。妖姫衝ゐ孤凝を睛一刀を納て公主を抱起し。我過て汝を疑ひ。驚き怒ること。必ず恐ることゐ勿れ。手を携て席上へ入り酒宴を設て隋礼し。枝羊醐ゐ入て妻を安撫て曰。汝ハ家ゐ在て二人の小児を守り又那波悟浄を逃さゐ勿れ。我宝象ゐ行て汝が父ゐ見ん。と忽ち身を動ずと見へけるが。俊秀なる郎君と変じて百花羞其徒をひく郎君行て

又王ゐ見へ。ゐ酒宴を設て饗し。ゐ公郎酒を飲て酔て本相を顕し。ゐ妖姫と練られ。ゐ妖姫慌てゐ。頓て雲ふ中ゐ乗て宝象国ゐ到り著。朝門の外ゐ停て黄門官ゐ対て云ふ。ゐ我ハ国王第三の弟馬なり。聖上ゐ見へんとゐ来り。願て斯と奏し。ゐ黄門官怪しみゐ内ゐ入て奏し。ゐ国王沈思し。ゐ朕二人の弟馬あり。今弟三の弟馬とハ雖なんと問ゐ。左右奏ていふ。ゐ陛下弟三の公主ハ先年妖怪ゐ攫れゐ。其在所知ざるゐ。頃日唐僧ゐ従て書を寄ゐ。ゐ紀碗子山ゐ居ることを知る。今ハ弟馬と公主を求ゐ。ゐ妖怪ゐやゐ。ゐ紀。ゐ王色を失ひ。他既ゐ妖姫たるゐ宜へ。何ぞ。早く追回せよと恐れ。ゐ三藏制し。ゐ曰。他雲ゐ騰て霧ゐ駕ゐ今追飯し

とゆきさうしと思ひて必ずと来たれり。不如宜公主見へおぼえ口舌を免れ
玉ひんと。茲に於て玉を練ふ順ひ宜入ると命じ給へば。頓て妖姪金
陛の下に入来て舞踏して山呼の礼をなす。君臣是を見るに其人品美麗俊秀なれば是は妖姪にあらず天晴揀梁の才。世を海ふ
器なりと感歎して止ず。玉を怖畏の心を悦びに向て曰。汝は是何
の公主の駙馬なや。妖姪白。臣は是城東碗子山の麓破月庄の民にて
幼なれ共より弓馬戈矛を弄して為生して十三年以来山間
に在て獲物を待ひしに一頭の班虎一人の女子を狄山坡を走り来
て一箭を引て射ふ。其箭班虎に当り女子を捨て箭を抜ひ
て山中へ逃去れ。臣即ち女子を労りて家に飯を湯菓を以て
終に生に問へ何國の人なると問ふ。公主なるを不言只民家の女

なりと答へ遂に配合して妻となして十余年の月日を送りし処
頃日初て公主なるを聞て罪を謝し又彼公主を取
て班虎は山中に隠て痕を養ひ成精して能変化して人を惑し害
し臣或人の語を聞て大唐より西天に趣く経を求る僧那虎に害
せらるる虎唐僧の文牒を打て已に唐僧と変して人を惑はし害せんと
するなり。今大王の殿上を見れば繡墩の上に座して是十三年なり
公主を取て班虎なり。大王何ぞ察して糺ざるべと言を巧に奏しけ
れば王大に怒て是を知やと問へば妖姪白。臣常に猛
虎を狩猟して業とす因て那伽化壌を法を悉く知て疑
ひなく他の衣相を顕して見せんと一盞の水を取寄唐僧に向
ひて黒眼定身の法を使ひ一口の水を噀て唐僧に吹かけ



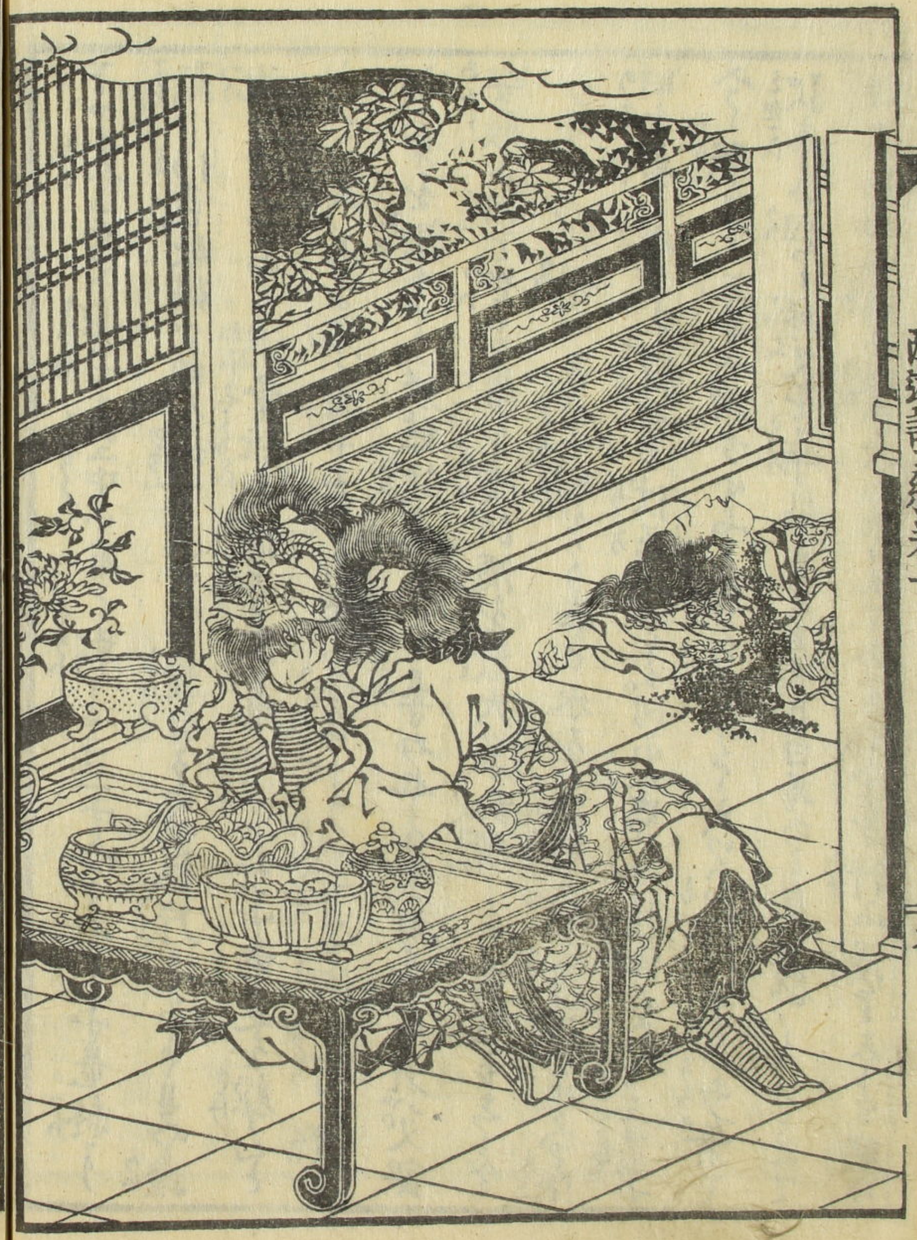

妖魔
変駒
馬災
三蔵
三蔵
妖怪

僧果しく妖怪ど為ふ兄八き一隻の班虎とぞなりふる。君臣大ふ驚
き後殿へ逃走る。急ふ武臣ふ命じて数百の兵器をもく砕撞し
むると魚獲法の緒神唐僧の身を守ゆく佑ふより。多の兵器傷
るも能ず。官軍騒ぎ嚷く左右へ天晩ふいるく漸ふ虎ぞ活提
鉄縄を切く是を綱め鉄竜ふ〈置る。茲ふ於く国王駙馬ど功績賞
し光録寺ふ於て大ふ筵宴を排き饗應る。斯く衆臣朝を退き後
妖怪銀安殿ふ進く八十八人の宮娥をえらび歌舞吹弾を奏させ飽
まぐ酒肉ぞ喫楽くるる。二更の頃ふいる大ふ沉酔し。堪ずく身を
跳せ己ど水桐を現し。側ふ琵琶ぞ弾居る宮娥を抓く一口ふ咬砕
きて残の宮娥此躰を見く肝を消魂を失ひ。皆散くふ逃げどあし
もくくくきくもれば。ふを奏るるも能ず丹墀のうけふ蹲踞戦
く兢々くど居る。同ふ唐僧の白馬金亭驛ふ繋ぎ在る。
唐僧妖姫ふ兄れく虎となりくるを聞く大ふ驚き歎息し。大師兄孫
悟空あ八此難ふ遭ふ〈きど知を。師又八戒ど縛を信し孫行者を追ひ
くる口舌ふ遭ふ〈薄情さよ。今八戒悟浄ら音信ふなし。よし我此妖
姫をふ殺し唐僧を助ん。と忽ち鞭縄を絶断日より西海小竜の妻
身なれど本桐を現し竜となり黒雲ふ駕く空中より城内を臨む。
るふ銀安殿ふ那妖姫上面ふ坐し自尉咬死しる宮娥の手足血流て
淋々くるを扣過殺とし。恐ふ受用る躰なれ。ふ竜心ふ討を楽し
出し。身宛揺し一人の宮娥と変し下気的ふ歩みいるく妖姫ど前ふ礼
をなし云るハ駙馬桐公賤妾ど命を助けす〈一言を宣えなん。桐公
此大殿ふ独坐し自尉ふ恐し奥ふらん賤妾敢をるし桐公

の陰をたゝせ給へ。妖姫甚だ悦び小竜が敵を〻せ〻又尋〻飲屠と
〻ひなぐ〻曰。汝定て唱を〻さハめ我〻為に一曲を〻〻く望む。小竜声が慇
〻〻空韻の小曲を〻〻。妖姫甚だ感賞し汝斯まで堪能なり。舞をも
知つ〻ん我為に一奏せよ。小竜微笑し賤妾わゞ舞を〻ゝまれど素手が
て舞を奏い〻ハ真〻〻や作〻ん。願くハ相公の腰間なる宝刀を借の〻
と云。妖姫好〻と云て宝刀を解て与へ給ふぞ。小竜宝刀を拔放し心
中が妖姫が縟間を伺ひなぐ〻。上三下四左五右六花刀法を奏〻り
刀光空が内めぐ〻白雪の飛が異なるず。妖姫其妙手に感歎し眼
を啞〻ん〻れ居り。小竜他の余念なるを乗じ飛上さる妖姫が頭
を望て一刀を斬下ちが。妖姫早く身を側て躱過し一根の満堂
紅を取て架住り。此間小竜も本相を現ハし銀安殿を跳て下へ

下へ互が雲が飛上へ空中が有て戦ふこと二三十合。されども小竜終り
敵しがたし。妖姫が面を望て宝刀を投付るが。妖姫片手ゆく是を搔
拭て片手ゆを満堂紅を振上て小竜を丁と打。小竜是を躱んと
して腿の上を強く撃きしハ急が雲中より逃下へ御水河が鎖り
て身を潜めり。妖姫迂きに尋ねれども其形を見ざれバ又銀
安殿が同へ登へ屠を喰ひ酒を飲大いが乱醉して前後もまらず
手所なり。扨那が竜八半間ばかり在て水を出窟が金亭殿が依
旧白馬と変て廐が伏居て。間が八戒八女悟浄を欺へ薬敷が
眠て三更の間分が眼を覚て大いが周障雲が手を集て
訳亭が同へ師父を尋れども見えず只白馬のみ在。八戒つくづくと見て
拜へ此馬只茲が繋ぎ置のみ。全身汗が浸へ走て腿の

白馬
化宮
蛾眉
花刀
舞



上ハ痕有ルモ不審ナレ察ルニ多人きうく師父を劫ー馬迄も
奪壊ひーなるべと呟くるふぞ。白馬早く八戒なるる我知忽ち人絆を
なー。師兄何ぞ飯くるの遅なやと呼ばれぞ。八戒ハ白馬の人絆を
仰天ー地ハ跌仆き遽く起き迎んとするを。白馬他が皂衣を
咬住く曳戻ー。師兄我を怕るるなれ。早く師父を救ひ謀と廻
ら世よとく。有ーるもを絆ぎ世られバ八戒頭をなぐく我徒ら武藝なれ
ハ及ぶず。迚も師父を救ふ能ハど。不如是ふ撒大せんハとく。又逃行
んと。白馬ハ衣を咬くぶ。師兄何ぞ臆病なる。那妖姫を殺ー
師を救ひるのハ大師兄孫行者なり。早く花果山ハ至て大師兄を請
きくれ。但ー今師父の難ハ遭ふるを絆ぐ。只師父一朝ハ怒ハ他を
逐放せを悔く常く憑くとく慕ふと欺た哄ーきくれ他きうて

師父の難を見ぐるるす妖姫を除た師父を救ーと練房ーくれた八
戒終ハ諾ー身を跳らく雲ハ上て花果山をさーて起行る

猪八戒義釋猴王　孫行者智降妖怪

斯く八戒ハ東洋大海を過て花果山ハ至て孫悟空石崖ハ上ハ
坐ー數千ハ猴子を左右ハ陳て酒宴をなー居り。八戒懼るく其
辺ハ蹲踞れバ孫悟空早く見咎め。汝ハ是猪八戒なるぞ。汝師父
を獲て西天ハ行ぐ茲ハきくれるハ何ぞ。八戒ハ曰師兄
ハ疑ひ無なり。我茲ハきくるハ別なるず。師父汝を恨く放逐せ
ば頭ハ汝るを思く前ーを悔く。今我ハ命ーく汝を請ふ
なり願くハ師兄師父ハ且ハ過を念とせず。きうく師父ハ事を
我ども大幸なると言を巧ハく言れた。悟空大ハ怒て八戒と

八戒
到花果山
屬悟空

叱して汝虚忘を以て我を欺くも何を信じぐ兄速に其実を白せと責
問八戒大いに驚き兄師兄なるまして疑ひ給ふ我敢て偽を不言とて悟
空益怒て汝何とて我を欺くや我此左の耳に上三十三天の人語迫
も聞え又此右の耳に下金綸水際八大地獄に至て十代閻王判官
ふと箕帚を迫も聞るなり今師又難に逢て救ふ術なく我を賺
して師又を救へせんとのなるべし汝明白に告ずんば忽ち我鉄棍を以
て二十棍打殺して怕しなれば戒大いに周障師兄なるべず短慮戈ぐ
ふ我実を告んとて波月洞の妖怪ども戎統の一編を悟空嘲
ひさも有んさも有るべし汝夸貨前に吾別に臨む若路上妖ども有
て師又を捉へ困しむば大徒弟孫悟空と云者ありと告よさば西方の
怪邪敢て犯をと有まじと教へるべし何とさ言ざるや八戒是を聞

心ふかりひるる八他をきくと怒せむるふ怒ずと思惟
てゆるる八師兄強て問ず勿れ弟教ろと言せふ妖怪大に笑
ひ他何者なれば汝に斯まで大結もるや若那痩猿我面前にきくば
他が皮を剥他が筋を抽油を以て蒸吃とのり依て他極て師兄
に勝る神通あるやと疑て如何ともなるべ能ず只きうて師兄を
請ろ悟空八戒に房まれて暴燥乱跳他何者なれ吾戈悔て斯无礼を
いやとて汝と同て行て他戎捉へ五躰を万段に砕死西言の仇を
酬ばと叫び即肉に錦の直裰を穿ち虎の皮の裙を束鉄棍をう
て衆猿に辞て別を八戒と倶に雲に乗て東洋大海を過て逕に碗
子山の金塔の前に到る八戒指て云ふ此処即ち黄袍怪が家なり他を
今宝象國にあり此に悟浄いまだ他の家に捉られて在り悟空曰

て等我ハ[illegible]〻〻雲端を下り洞門ふ至り見ハ二人の小児頑
要〻り。一人も十才許一人も八才ばかりこ。悟空直ふ二児の頭を抓ミ走
出るふぞふ児ハ恐ま〻〻哭〻。洞口ふ在り小妖急ふ走入り百花羞ま
斯と報ぜ公主驚き周障洞門ふ走り出ず我上〻悟空を呼。汝何
者なれを我児を捉行ぞ其児の父ハ甚ハ強男の者なれバ汝〻ふも着
錯あ〻バ汝ふ患憂を見ん〻ぞ〻〻返せよと呼り〻〻。悟空笑〻我
ハ是唐僧の大徒弟孫悟空と云ふ者なり。我法弟汝悟浄汝ガ洞の中
ふ捉へ在り。他を放し出さ〻我又二人の孩児を汝ふ還さ〻公主ハ
空〻急ふ内ふ入汝和尚が綑を解く曰先ふハ妾ら父母ふ書を贈り
より一命も危ら〻ふ長老言約〻〻妾ガ性命を救ひ〻り依〻妾
長老を放し饒さ〻と約り処期せ〻〻今洞外ふ和尚の師兄孫

悟空きゝ〻り〻汝を逃ま〻ん〻ぞ〻〻妾ら二人の児を
返〻〻〻よと〻〻悟浄一度孫悟空の三字を聞く大ふ悅ひ公主ふ謝し
て洞門を走り出悟空と八戒を見て礼をなし昨日の事体を細説す悟
空曰汝二人此孩児を抱て宝象國ふ到ま突殺し玉階の前へ投落し
且黄袍怪ガ児なる〻〻ば〻〻他怪なる〻〻悪殺〻此里へ回り〻〻〻〻吾
茲ふ待受〻他を手捉ふせん。二人空〻領諾し遂ふ二児を〻〻〻〻雲を起
し〻〻去り〻バ公主泣〻曰汝唐僧ら徒弟〻〻も甚ら信義なし。先ふ
汝和尚を放し出さ〻二人ら児を回さんと云なら〻〻今却〻其〻なれ知
何悟空笑〻曰公主我を恐るなれ汝妖怪ガ〻を捉ひ〻汝ガ父母
我知り〻〻ハ何ぞ公主ハ是を空〻涕泣し妾豈父母を捉ひ〻〻〻〻只
此妖精妾を騙し捉へふ因〻此里ふ在り〻妾〻〻ふ妖怪ふ配んより自

害せんとハ思へども父母を今一度見んとて死せんも悲しく殘喘を延ばし
て飯る日を待る妻年なりと云終て泣伏泪泉乃ごとし悟空が曰公主必
ずや傷く悲まざれ妻しハ猪八戒ハ安ずるなり我汝が為ハ那妖精を捉
朝ハ回て双親ハ見へしめん公主が曰汝如何なる手段を以て他を促がし死ず
悟空が曰汝何延ハも身を深く廻避て我消息を待吾別ハ手段あり公
主是ハ順ひ廻避しが悟空ハ忽ち公主乃摸樣ハ変じ泪乃中ハ躲居
て專ら那妖精を待居たり却説八戒と悟淨ハ二人の孩児を抱て宝
象國ハいたり二児を等く刺殺して玉階乃下ハ投落しね滿朝乃文
武是を見て仰天して天上より二児乃尸を降せりと驚き騒ぐ八戒悟淨
雲中より此体を見て是ハ公主が捉去て黄袍怪が孩児なり我徒二人
捉きたりて殺捨たりと高声ハ呼たり此内妖怪ハ銀安殿ハあつて
未だ宿酒醒ざ手所て在たる黄袍怪が孩児を殺捨たりしとよて大
いハ驚き起て雲中ハ見れば悟淨八戒吆喝居たり他ハ既ハ我泪中
ハ綁まれたるハ如何て遁出しや又我児何ゆ促られたるやと覚束
なくいざ我家ハ飯まて子細をたゞ再びきたりて説結したるも遅
しと雲ハ乗て山ハ飯る此内國王ハ夜来乃事を変て少始て三
附馬ハ妖怪なるを知て官人ハ命して牢中乃虎と二人の僧を
ぞ守せる内ハ黄袍怪ハ内ハ入きたりて泪中ハ入れば悟空ハ公主の姿
ハ変じ待居たる他を見て胸を打て大ハ哭を妖精是を悟空と
ハ思て寄て摟起て我渾家何ゆ泣て問悟空泪を注て
て曰郎君何て早く回来ざるや今早八戒と共ハ僧きたりて汝和尚
を刻て去又二人乃孩児ハ捨行其存亡を知ず為ハ郎君是ハ乃

我を顧す妾を割捨ゝ[illegible]ふこの怨ゝさよゝく又さめざめと泣れハ妖怪
拳を抓く乱跳罷了々々我児ハ既ふ他ふ突殺されさり等吾他ふを
捉く我子の仇を報ずるゝ汝先泣るなれ悟空ぞ白妾久く哭く心疼
起る能ず妖怪白患ることなれ我ふ一件の寶貝あり是を以く摸れ
ば忽ち痛を忘るゝなり只此宝貝指を以く弾くるを忌り弾く同ハ我
本相を現ハをなりと示さで悟空是を実く潜ふ悦ふ所ふ妖怪ハ悟空ぞ
手[illegible]携へ洞の奥深き処ふいさり即ち口中より一顆の内丹舎利大さ雞子
ぐくなるを吐出さと其色玲瓏く内丹ゝ悟空是を結把偽く心頭を摸
る一遍ゝ忽ち一弾ちぐれれば妖怪慌く捻んともるる悟空早く宝
貝を把く一口ふ呑下るり妖怪大ふ驚ち怒ゝ拳を上くおんくす悟
空其手を隔住り妖怪ぞ腕を強く抹ゝ忽ち本相を顕ゝれハ妖怪
悔然とおどろ[illegible]汝ハ何者なれ我を欺ち宝貝を騙ゝ搶ゝぞ悟空ぞ曰
我ハ是唐僧の大徒弟孫悟空なり故有く師父ふ放逐せれ故々ふ飯
ゝぐ汝我師父を困ゝめ且背ほく我を悪口す依く我茲ふきらつて先
二人の孩児を捉ハ戒ふふ殺さゝめるり汝も首を伸く我一棒を受よ妖
怪大いふ怒ゝ我汝を悪口せるるあぞ其ハくれ二人の孩児ぞ仇るる汝逃
ゝも遁さゝく洞中の羣妖を點呼ゝ三四層の門を開揮ゝ余すまゝと
閧るり悟空ぞるより大喝一声く三頭六臂の形と変ゝ三根金箍棒を
手ゝ八方ふ當く數多の小怪を悉く打殺ゝ遂ふ黄袍怪ふるり合
門外ふ跳出半雲半勢の間ふ有く戦るり五六十合然るふ妖怪悟空の
一棒を家ゝ忽然ゝく形を消るり悟空身を跳ゝく雲端ふ飛上ゝ
四方を望れゝも所在なきぞ悟空心ふ點頭吾既ふ悟るるり此妖怪必

らず天上よりきたれるなるべし。等我天上に行て查看せばやと觔斗雲に跳乘て南天門に上り徑に通明殿の下に至る。四大天神問て曰。大聖今何の為ぞ茲にきたるや。悟空曰。吾唐僧を保護て宝象国に至り一個の妖怪有て国女を犯し又我師父を困まし。依て我他と鬪ひ。他忽然として其形を消うせり。我思ふに是天上よりきたれる怪精なるべし。此妖神は是何者なるや。早く查看して其原を糺せ。天師是を聞て霊霄殿に進て玉帝上帝に悟空の趣を啓奏し。れば。玉帝勅旨下して普天の神霊を查勘らるに。都て天上の諸神欠る者なし。只北宿の内二十七位まで有て奎星を見ず。天師此旨を同奏し。奎木狼下界して見しめ。玉帝宣く。妻女の内昏を往る。天師指を屈て籌へ四卯至て三日に一次を點ず。今既に十三日を過しぬと。玉帝宣く。天上の十三日は下界の十三年に当れり。急ぎ二十七宿に令して他然促へきたる。奎しと勅旨ある。是に依て天師命令をつたへ。二十七位の星員皆を領して奎星を尋るに。那奎星は悟空に驚きて山間に躲る。是水気に乗て妖雲隱され更に見出す能ず。此団本部の星員に命じて弦聽ずして遂に躲る能ず。衆星に曳出されて玉帝の前に引居られぬ。奎星頭を叩て罪を謝して云く。玉帝宣く。汝何故に私に下界して奎星奏して曰。萬歳臣が罪を赦し給へ。臣下界して別の子細に非ず。那宝象国の公主は本是披香殿侍香の玉女なり。臣他と私通せんと欲しに。恐らくは天宮の勝景を汚さぬ。罪狂ひ。他を下界に堕て皇女に托生臣又たまたま妖怪となり。碗子山に居を占。他を搶とりて夫婦

しなるより十三年。今日大聖孫悟空がちからに遂に其情顕はれぬと明白に述られだ。玉帝旨を下して奎星を兜率宮に貶し。太上老君が丹薬を煉る所の炉辺に在て火を焚役となし。功あらハ職に復し功なくハ罰を加へんと命令あるにぞ。奎星ハ頓首して殿を退きたり。悟空ハ玉帝の発赦を見て心中歓喜し殿に昇て恩を謝し。衆神に辞し別れて再び觔斗雲にうち駕。波月洞に回りて公主を尋出し。妖怪を収し條を語り聞せたる処へ。八戒悟浄二人もかへりきたりしかバ大かたに悦び終に公主を伴ひ縮地の法を以て須臾に城中へ皈り金鑾殿に進みて公主を国王にわたしたれバ。父王母后夢かとばかり嬉しく親子相抱き久別の情をのべ涕泣せられけり。文武の百官斯と聞て列位へ朝し公主の皈宮を賀し萬歳をぞ唱たる。国王悟空に那黄袍怪ハ是何の妖精なる

ろ中と同ふて悟空前ろす戎繞ろす一遍をヾ国王大かに悦ひ厚く謝して即ち朝房の内なる鉄籠の辺へ悟空が伴ひ虎と成られし三藏に見へしむ。其同衆官那假虎を曳出し鉄索を解に三藏法師ハ猶妖術に厭れて言ふ能ハず。悟空呵々と笑ひ。師ハ実に好和尚なり。前に八戒が讒言を信じて我を兇悪なりとし逐退けたまひしが。今日恁麼是非の苦を受出まふやと。ひ又悟浄も跪き師兄もとへ不看僧面看佛面とハ古人の金言にあらずや。師兄既に是に至る。万望師父を救ひ給へ。悟空まろうて曰吾豈心に忍び救ざらん。汝早く水をとりきたれ。悟浄急に一盃の清水をとりきたりて悟空にあたへれハ行者是を拿て那虎の頭を望て一口を噴かけ妖術を退けしかバ忽ち三藏本の身になり。性を定め眼を開き悟空を見て且驚き且悦ひ。汝那裡より茲にきたりしや。悟浄

有り條件統て一遍をれば三藏謝して曰賢弟の功労限なし吾西天に至
て功果を遂て東土に皈ぶ唐王に奏して汝が功労を第一とせんと
歡喜たること限なし。因に国王素筵を整へ三藏師弟を饗應し數
多の宝物を積て酬れども師徒分毫も受ず辭して別き宝
象国を立出るに国王多くの官員を率て遠く送り涕くこと別
平頂山功曹傳信　蓮花洞木母逢災

唐の三藏八戒孫行者を伴て意悅び師徒四人宝象國を離て西
に向ひ夜を徹して曉に行又三春の景候に値或日行て一座の高山に
に其路險峻にして行ぶこと四人皆倦て憩て前面を見れば緑草青々たる
坡の上に一人の樵夫あり三藏に向ひいひけるは長老且く住まれ吾一言を
告ん此山中に一駄の妖怪あり專ら東来西去の人を吃て油斷む

こと三藏是を聞て大に驚き三人に向ひ如何せんと議す孫行者の曰
師父怕れ給ふ吾行て委く問きたりいざ坡の上に行て禮をなし今
大哥教られたる処は是何の妖怪なるや願くは委く絲に説給へ樵夫答て
曰此山行同ること六百里号て平頂山と云山中に一個の洞あり蓮花洞と号
す洞の裡に両個の大頭あり他に唐僧の形を図画し尋求て吃んとす
長老心を用ひて一個の唐の字だも言出すこと能はざるに其人
ち成仏失て行者頗る怪み頭を抬て空を見れば那樵夫と見えしが日
値の功曹あて雲の上に居たり悟空大に驚て急雲を起して追到り詞
くに曰汝這夯貨絲統あれば直に来て慇懃に申べき変化を賣
弄して我が僕を无礼なりと叱れば那功曹慌て礼をなし大聖吾服
を饒して那妖怪果して神通廣大にして変化窮なし恐くは卿が

功曹化糞夫統妖怪所在

神機を妙く働らすふあるもちんだ師父を保く行ぎかんぬ孫行者曰不去緊
吾唐僧を護く山を過んと功曹ふ別を心ふ有りひろ八那妖怪なる何程
の神通あり怎敵ふ先八戒を守りく関を守り他去員なる吾行向く本るを
見ず師父とく師りきくりぬ三蔵其子細を問ふ孫行者ぐ曰師父心ふ安ん
じく行の之此山只二個の小怪あるのみ此辺の者も膽女なる故怪を恐れく先つく告ひなり去り拯も心を安んじ玉へとなれば先八戒と
かりく窺ひきくしかるく三蔵驚きて八戒ふ去りく命じぐれで八戒底気
味るく却ひなぐるく師命黙止るく領掌し釘鈀をとるく出去る悟空三
蔵ふ向ひ八戒一言の辞退もせく行八其意はず他が紙ふ付く委く窺ひ
きくりれ師しく忽ち身を揺をとるえるば二個の蟭蟟虫と変じ八戒
を追く赴行他ぐ綜の下ふ住ってぞ伺ひる八戒斯と八夢もちず只管

道を走りく迚ふ七八里を往しの身体疲れ弱れた大いふ孫行者ぐ恨く
頭を搏じく罵ると八汝此弼馬温何ぞ吾ぐ捉弄ふしるる峻山を巡
しむる八何るぞ吾今身疲れ睡きくく堪ぐ此処ふく一眠し覚て怪
立るる山ぐ巡ると云合糊さんと獨言し山の四るる処の叢ふ鎖りく
く眠る行者彼が耳根ふるる此体を見ると扱ると可笑他が耳孫よ
ると赴下ると身を動くく又啄木虫と変じ嘴をなるして一翅ふ赴きくり八戒
の唇ぐ咬ぐ抗揸的刺八戒慌く爬起妖怪ありくと乱嚷なぐる唇を
撫く曰彼妖怪吾ぐ一搶突るふ不疼ると呼し名くく四方を見れども一
物もなし抬頭を抬く空を見れば二個の啄木虫半空ふ彩居るり八戒大い
腹を立吾那弼馬温の巳人ふ欺れ山を巡るるる悔気なるふ汝又きく
つく吾眠を妨るると安らるね吾是を慌きり汝慌ふ我嘴を抓木なり

とまりひ咏く裡面なる虫を吃んとするなり。吾今嘴を隠しく睦ふ
歟しと。ぢ歟遂ふ嘴を懐ふ押入依然叢ふぞ去ふる。行者又飛下
里八戒ノ耳根を強く刺るふぞ。八戒再度ハ驚き紀く跳起。是ハ多ず他
ノ窠あり。吾ふ占らまこるすべ恐き。如此刺なるる。罷々今ハ睦るまこと
く釘鈀をつく立上まで。悟空もまく蟭蟟虫と変じ八戒ノ耳ノ根ふ
任ま拔四五里斗行る処一座ノ青石ある。ハ歟ふ立止。石ふ對く礼
をなし。独言くいふ。吾今些青石ハ師又ふ准へ皈てノ答態を演習
せんくく自ら問自ら答く曰。吾問く師又ふ尺ぢ坐ぢ問ふ。此所妖怪
有やと。吾有と答。又此山ノ名ハ問ふ。吾答く此石ふきぐり石頭山
と云。又何ノ門ぞと問ぢ。此釘鈀ふなぞく釘々鉄葉門と云。又泪ノ廣
狭を問ぢ三層なりと答。ハ又門上ノ釘子妻女ノ有と問ぢ吾心忙し。

くく不紀といそ。如此停當しく滞なく答なぞ。師又ハいふもさらなり
那弼馬温をも欺く歟しく。遂ふ旧ノ路ふ回まきる。行者ハ先逆て
飛ノ本相を顕し。三藏ふ八戒ノ繞結をいへるすを預め
結る所ふ八戒程なく回来る。三藏問ふ。此山妖怪ありや。八戒ノ曰若干有
弟子親ふ是を見ぬ。行者叱く曰。汝前ふ叢ふく睦るぞ。狐覚ず
くくふ夢語ノ余を吐出ぬ。八戒是を聞く頗る驚ぬく身戦矮め
師兄何くくふ戦いひ吾さふ睦るなり。ふ睦るとも師
兄奈何ぞ是戦知。行者白此山何ノ号や。八戒答く曰石頭山是ノ
行者叱く曰。汝先ハ戦用くるなれ吾能是戦ぢまる。山中泪門を八釘々
鉄葉門といひ泪裡ノ廣狭を問ぢ三層なりといそ。又門上ノ釘子妻女
者と問ぢ吾心忙しく不紀といそ。如此停當しく滞なく答なぞ。

弼馬温を欺くべし。正ふ斯ゆゑなるぞ。八戒仰天して頭を叩たて罪を謝し。師兄ハ緘ふ天眼耳通なり。吾再び行て緘ふ山を巡るべし。願くハ罪を宥し給へ。行者ちと睨へ。這夯貨師命なれ共却て我を罵り。恣ふ睡て啄木虫ふ釘覚れ。大統をひて師を惑さん。以ほの緘の。吾這五棍の棒を背ふ受用せよと。鉄棒を把て振上る。八戒大ひふ哭喪。師又ふ就て種々謝言し。ハ三蔵悟浄言ハ共ちして行者を宥め。再び八戒を引て山を巡らしむ。八戒悅ひ釘鈀をうけて走り。此度ハ孫行者跟行ぞとの。疑心生暗鬼なるひ。八戒始ふ懲て草ゆ動ハ木葉ゆ落るも行者と思へ。虫飛鳥ゆ啼も悟空ゆ変ぜふ。やうやうひ。只管怖懼して道を急だり。茲ふ這平頂山蓮花洞ふ兄弟両個ゆ妖怪あり。兄を金角大王とひ。弟を銀角大王とひ。此日金角弟ゆ銀角ふ向ひ。吾曾て人ゆ聞を。東唐大唐ゆ天子。三蔵とて僧ふ命して西天ふ往て佛を拜し。経を求しむと。那方ハ僧ハ金蟬長老ゆ臨凡十世修行ゆ好人なり。他ゆ肉を吃者ハ延寿長生なりむと。ゆ他一行四人馬ふ五ゆ吾委て一猫ゆ画図ふ写せり。汝今日山ふ巡て路ゆ上り。和尚ふ遇ば。画図を照瞭して。似る者あらば早く捉へ。一福ゆ画図を与へ。銀角命を領して三十個ゆ小妖を引て逕ふ山を巡るに。端なく八戒と行逢り。一個ゆ小妖銀角ふ告て曰。此和尚那図中ゆ猪八戒ふよく似たり。銀角則ち画図を鎗ゆ柄ふ掛て熟と見て曰。白馬ふ騎ハ三蔵毛験ハ孫悟空。色黑く丈高ハ沙悟浄。嘴長く大耳なるハ猪八戒と記されたり。扨ハ渠猪八戒ふ窮まり引捉と呼れバ八戒大ひふ驚て急ふ逃ントす。銀角忽ち刀を擎て追て

るゝぞ。八戒も是非なく釘鈀をふり引返し。二十余合闘ひいまだ勝負
なきうちに。三十個の小怪一斉に。八戒を遂に敵しがたく
逸足出して逃んとせしが。忽ち藤羅の足を絆れ地上に倒されぬ。小妖
ども折ふしなり。遂に擒にして蓮花洞へと引行ける

繪本西遊記二編巻之一畢